

令和4年度

フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションプロジェクト戦略検討委員会

令和5年2月10日（金）14:00～15:30

プロジェクトの取組

【目標】
 ・食を中心とする健康増進社会の実現
 ・異分野の融合によるイノベーションの創出

【指標】
 ・静岡県健康寿命 日本一
 ・食料品等の付加価値労働生産性 日本一

具体的な展開

戦略1：きわめる（研究開発）



オープンイノベーションやデータ活用による研究開発の推進

- ・ファルマ, フォトン, AOI, MaOI, ChaOIとのプロジェクト間連携
- ・大学シーズやSR等の成果の公開
- ・健康データを活用したデータ駆動型の研究開発

戦略2：つくる（製品開発）



競争力のある高付加価値製品の開発

- ・県産農林畜水産物を活用した機能性のある製品開発
- ・優れたものづくり技術による生産性の向上（加工機械、フードロス）
- ・肥沃な土づくりによる豊かな農産物の展開
- ・健康情報を見える化するデバイス等の開発支援

戦略3：いどむ（ヘルスケア）



データヘルスの実践による健康機能の維持・増進

- ・県民の健康データの収集と活用（データヘルス・リビングラボ）
- ・健康課題に対応した製品・サービスの開発（フレイル、メタボ等）
- ・ヘルスケア産業の創出（食や運動を含む健康プログラムの開発）
- ・幼年期の食生活の向上と食育の充実

戦略4：とどける（販路開拓）



社会の環境変化を踏まえたマーケットインによる販路拡大とサービスの提供

- ・地域のブランディングによる商品価値の創造
- ・現代のライフスタイルや健康状態に応じた商品とサービス展開

戦略5：そだてる（人材育成）



産業人材等の育成と開発環境の充実によるクラスター形成


- ・健康講座などによる県民の社会参加促進と健康リテラシーの向上
- ・総合食品学講座の拡充
- ・健康イノベーション専攻の設置（静岡県立大学）

戦略6：ひろめる（情報発信）



「食の都」の内なる国際化と魅力ある静岡の食文化の発信

- ・ハラール等に対応した食の展開
- ・GAPやHACCP等の国際規格への対応支援
- ・静岡型健康食の海外ビジネスの展開

産業競争力の向上

 食を中心とするヘルスケアの推進

取組を支える体制

機能性食品開発プラットフォーム

- ・相談から届出、販路まで一貫支援
- ・フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンターと県立大学にて整備

化粧品開発プラットフォーム

- ・化粧品素材開発及び製品化を支援
- ・農林水産物の付加価値向上

FHCaOIフォーラム

- ・企業等が集まる出会いとイノベーション創造の場

データヘルス・リビングラボ 静岡

- ・県民参加による実証フィールド
- ・サイエンスに基づくデータを収集
- ・新たなサービス創造の場

○プロジェクトにおける主な取組

R4の主な取組

○計画の進捗状況と今後の方向性検討

- ✓ 計画の中間年にあたり、有識者委員を中心に、御意見を伺った。

P 15,16

○フードテック活用検討会の開催

- ✓ 注目度が高まるフードテック活用による県内企業の付加価値向上を図るため、活用の方向性を取りまとめた。(R4.12.7)

P 17-19

○化粧品のOEM・ODM受注生産拡大支援

- ✓ 受注拡大のため、県内企業が持つ技術力や研究成果を収集し、県内外の化粧品企業に情報発信とマッチングを実施(新規受注2件)

P 6

○ヘルスケアビジネス事業化促進助成

- ✓ 新設した助成金を活用して、ヘルスケアビジネスの事業化に向けた実証や可能性調査を支援(計8件採択)

P 8

R5の重点取組

○フードテック活用による事業化支援(新規)

- ✓ サステイナブルな仕組・製品づくりをテーマとしたワークショップ開催などにより、静岡発「未来の食」の事業化を支援

R5当初: 1,300万円

P 19

○ヘルスケアビジネス事業計画作成支援(新規)

- ✓ 事業化が難しいとされるヘルスケアビジネスの事業計画に対して、専門家が支援することでヘルスケア分野への参入を促進

R5当初: 200万円

P 20

○ヘルスケア分野における産学官連携の促進

- ✓ 自治体の地域課題等と企業の商品のマッチング及び実証を研究機関とともに支援する仕組みづくり(拡充)

P 21

○消費者ニーズを捉えた商品開発と販路拡大

- ✓ おいしく、健康をもたらす「おやつ」開発(新規)
- ✓ 店頭での健康提案による販売促進の試行(新規)

P 22

今年度の取組実績

分野	製品開発プロセス				人材育成 開発環境の充実
	研究開発 戦略 1	事業化 戦略 2	販路開拓 戦略 4	海外展開 戦略 6	
食品	<ul style="list-style-type: none"> 研究機関や企業による研究開発 (43件) 	<ul style="list-style-type: none"> 食品等開発助成 (4件支援) 新事業創造研究会 (4部会支援) コーディネーター支援(1,550件) 	<ul style="list-style-type: none"> 展示会出展支援 (商談のべ199件) 国内テストマーケティング(26社36品) 地域ブランディング 販路開拓アドバイザー支援(705件) 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン カタログによる海外販路開拓 (4カ国で展開) 海外向け商品開発支援 (2社) 	<ul style="list-style-type: none"> 総合食品学講座 (28名受講) 企業誘致の促進 (15社) フードテックセミナー (83名)
化粧品	<ul style="list-style-type: none"> 研究機関や企業による研究開発 (3件) 	<ul style="list-style-type: none"> 化粧品開発助成 (1件支援) コーディネーター支援(380件) 	<ul style="list-style-type: none"> 展示会出展支援 (商談のべ138件) コスメマルシェ (5社) 販路開拓アドバイザー支援(6件) 受注生産機会の拡大支援 (15件) 	<ul style="list-style-type: none"> 韓国化粧品企業との意見交換会 (36名) 及び商談 (6社) 	<ul style="list-style-type: none"> 化粧品セミナー (92名)
ヘルスケア 戦略 3	<ul style="list-style-type: none"> 研究機関や企業による研究開発 (9件) リビングラボ (モニター約270人) 	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスケアビジネス事業化助成 (事業化実証2件、可能性調査6件支援) コーディネーター支援(596件) 事業化相談会(1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 展示会出展支援 (再掲) 国内テストマーケティング(再掲) 販路開拓アドバイザー支援(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> 海外向け商品開発支援(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> 健康イノベーション教育プログラム (66名受講) ヘルスケアビジネスセミナー (57名)



新事業創造研究会の成果品

左：ヨーグルトの副産物（ホエー）を活用
右：規格外のしらすを活用

【概要】

- 本プロジェクトとAOI、MaOI等の先端産業創出プロジェクト、大学や公設試との連携が進んでいる。
- 機能性食品開発プラットフォームが有効に機能し、県内企業の届出件数は全国トップクラス
- 首都圏での展示会出展、テスト販売、商品のブラッシュアップなど、新たな販路拡大に向けた取組を支援
- 静岡らしい高付加価値製品の開発支援を強化するため、フードテックを活用した取組を新たにスタート

機能性食品開発プラットフォーム

機能性表示食品の開発を、相談から科学的根拠の証明、消費者庁への届出まで一貫支援する体制を全国に先駆けて整備



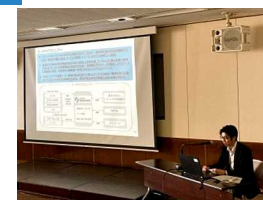
GABA含有の
干し椎茸

- 静岡県内企業による届出件数 282件【全国4位】 R4 + 35件
- プラットフォームによる支援件数 45社85品目 R4 + 7社 9品目

今年度の新たな取組やトピック

○フードテックセミナーの開催（R4.7.11）

- ・県内企業の認知度及び取組の機運を高めるため、関東経済産業局及び静岡銀行の協力を得て開催



セミナーの様子

○SDGs、フードテックを意識した製品開発に対する助成

- ・バター製造時の副産物（バターミルク）を原料にしたお菓子の開発（食品等開発助成）



- ・スタートアップ企業の熟成技術を用いた商品の試作（新事業創造研究会）



熟成シートによる魚の熟成実験

○【進捗状況】化粧品分野



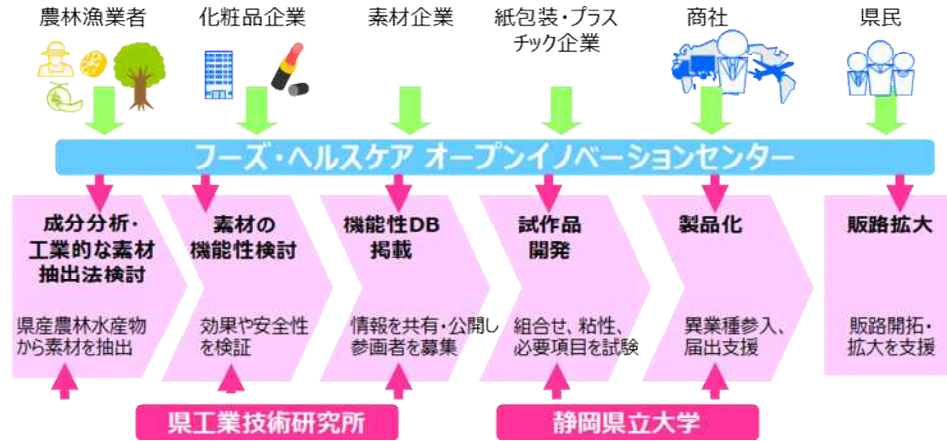
首都圏展示会での情報発信

【概要】

- H30～R3まで、地方創生推進交付金を活用し、研究開発～販路開拓までを一貫支援
- 県産農林水産物を活用した化粧品素材や製品等が多数誕生**
- R4は、販売金額の増加に向け、これまでの取組成果や県内企業の技術力を発信し、**OEM・ODM受注生産機会の拡大を支援**
- R5以降は、JETRO等と連携し、**海外市場の販路開拓を支援**

化粧品開発プラットフォームによる開発支援

県産農林畜水産物を活用した素材開発を進めるとともに、素材に関する科学的なエビデンスの構築等を行い、県内企業の事業化を支援



○事業化を目的とした研究開発、実証等の件数

・66件 (H30～)



スキンモイスチャライザー (株コーヨー化成)

今年度の新たな取組やトピック

○OEM・ODM受注生産機会の拡大支援

新規発注先を検討中の企業に情報冊子を案内し、15社が新たに商談の機会を得た。

(契約に至った案件：2件)

- ・ペンシルタイプ化粧品の包装保管業務
- ・冷却ミストの製造

R4年度実績

OEM・ODM受託企業情報冊子掲載企業数	30社
新たに契約に結びついた件数	2件



OEM・ODM受託企業情報冊子

○【進捗状況】ヘルスケア分野



リビングラボでの消費者アンケート

【概要】

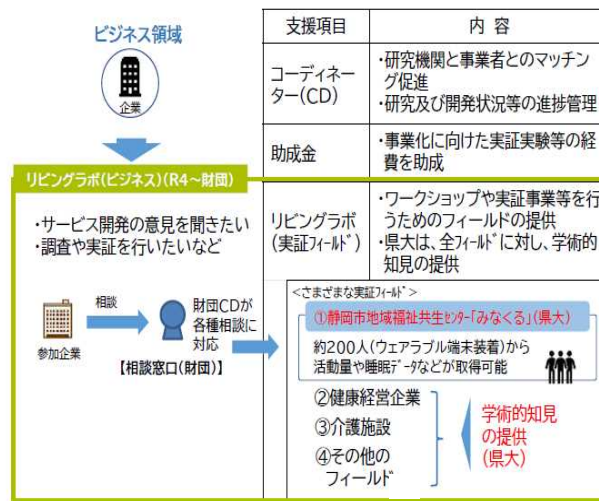
○ R2より、**本プロジェクトの新たな柱**として、ヘルスケアの取組を開始

○ 支援体制の整備として、県立大学が、静岡市地域福祉共生センター「みなくる」を活動拠点とし、リビングラボ（実証フィールド）を整備

○ R4は、**リビングラボの窓口を財団に移管するとともに、補助金による事業化支援**を実施

○ **エビデンス取得のため、学術機関**（静岡県立大学、静岡社会健康医学大学院大学等）との連携体制構築を推進

ヘルスケアビジネス開発支援



コーディネーター配置や助成金、実証フィールド（リビングラボ）の整備等により、ヘルスケアビジネスのエビデンス取得や事業化を支援



データヘルス・リビングラボ静岡

「みなくる」
モニター：約270名

・ 通いの場に集まる地域住民にウェアラブル端末（Fitbit）を貸出し、自身の健康を見える化
・ 新たなヘルスケアサービスや商品を生み出す際の実証フィールドとして活用

今年度の新たな取組やトピック

○ヘルスケアビジネス事業化促進助成

- ・ 実証フィールドを活用し、ヘルスケア商品の事業化に向けた取組を補助金等により支援
- ・ 事業化実証2件、実施可能性調査6件を採択

○リビングラボの活用

- ・ 企業窓口を財団に移管し、コーディネーターが相談に対応（リビングラボ友の会ビジネス：76会員）**R4 + 20会員**

○企業交流セミナーの開催

- ・ 「健康に資するおやつ」をテーマにした企業向けセミナーを開催



認知症予防に関する調査の様子

○取組実績 <ヘルスケアビジネス事業化促進助成> (R4年度から)

区分	企業名	テーマ	取組の進捗状況等	備考
事業化 実証 (2件)	(株)天神屋	健康寿命延伸のための「 配食サービスによる栄養管理モデル 作り」	9月から12月にかけて実証を行い、現在データ等の解析中	補助率： 1/2、 限度額： 500万円
	(株)white from green	バナナ由来レジスタントスターチによる国民の健康増進貢献事業（機能性表示取得）	ヒト試験完了、論文作成中 パッケージデザイン等の作成進行中	
可能性 調査 (6件)	(株)KAWANEホールディングス	「心・脳・体」をリフレッシュするヘルスケアサービス事業（ ヘルスツーリズム ）	ヘルスツーリズムのプログラム及び紹介用リーフレットが完成 健康博覧会等で健康経営企業等へPR予定	補助率： 1/2、 限度額： 200万円
	日研フード(株)	心と身体の健康維持に繋がる美味しい機能性インスタント飲料で ウェルネスを体感できる仕組みづくり 検討	ウェアラブル端末や脳血流計を用いたデータ収集が完了し、現在解析中	
	フジ日本精糖(株)	イヌリン及びSynbioticsの腸内細菌叢やその代謝産物への効果の検証	培養試験が終了し、現在データを解析中 1月に報告会を開催	
	(株)創生	軽微な脳機能変化の数値を手掛かりに 生活習慣の改善活動サービス の事業可能性調査	改良版の認知症予防生活習慣アンケートを使用した脳いきいきイベントを開催。レポート自動作成ソフトが完成 今後、自治体を対象に市場調査を実施	
	(株)SHOUJI	手軽に継続できる健康維持に寄与する菊芋を使ったスープの事業可能性調査	菊芋スープのサンプルが完成。展示会及びモニターでの市場調査結果を商品化へ反映	
(有)石井育種場	野菜摂取量の増加に繋がる冷凍カットケールの事業化可能性調査	冷凍ケール及びケールを使ったスナックについて、リビングラボ（みなくる）で消費者モニタリングを実施		

⇒ サービス開発を目指した取組も出始めている。

○先端産業創出プロジェクトや研究機関との連携

連携のプラットフォームの構築・運用 (県産業政策課)

- プロジェクト連携会議の開催 (R4: 計5回 (予定))
 - ・各プロジェクトの事業コーディネータ間での交流によって連携促進
- 「しずおか産業創造プラットフォーム」の運用 (R3.12月運用開始)
 - ・オンラインコミュニティへの登録により、各プロジェクトの垣根を越えて、様々なメンバーとの困りごとや協業の相談等が可能
- 「テクノロジー静岡」の運用 (FHCaOI関係企業: 37社掲載)
 - ・令和2年度に開設した県内企業の技術情報Webサイト
 - ・各プロジェクトの事業コーディネーターによる助言を元に掲載内容を充実化



産学官連携による研究開発・事業化

- 海洋由来微生物を活用した新たな食品開発
 - ×MaOI-PARC×県公設試5機関
 - ・R3 海洋微生物ライブラリーの運用開始
 - ・有用微生物を活用した食品開発技術により県内企業の商品化を促進
- 生鮮食品の機能性表示食品開発
 - ×AOI-PARC×FHCaOIセンター
 - ×農林技術研究所×静岡県立大学
 - ・各機関のCDが連携することで、一貫した届出支援の体制を実現
 - ・本県事業者の生鮮食品の届出件数: 21件【全国2位】

- 香り緑茶の大量生産及び販路拡大
 - ×農技研茶業研究センター×農研機構
 - ・県が開発した香り緑茶の大量生産技術を、国委託プロジェクト (H30~R4) で現場導入・実証
 - ・FHCaOIセンターにより一部成果品を首都圏テストマーケティング



ビール、豆乳ヨーグルトなどが商品化



今年度の届出製品



製品化された香り緑茶

○販路開拓支援

自治体によるブランディング

(県マーケティング課・静岡市・藤枝市)

○しずおか食セレクション「頂」とふじのくに 新商品セレクション (県マーケティング課)

- ・県産食材のブランド力向上を図るため、「頂」ロゴを活用し、首都圏スーパー「ヤオコー」や、「セブンイレブン東海」と連携して新商品開発等を実施
- ・食品等開発助成で冷凍技術の開発を支援した弁当が「ふじのくに新商品セレクション」に認定



「頂」ロゴマーク



セブンイレブンでの新商品開発



金賞受賞の(株)桃中軒のお弁当

○「静岡おみやプロジェクト」

(静岡市)

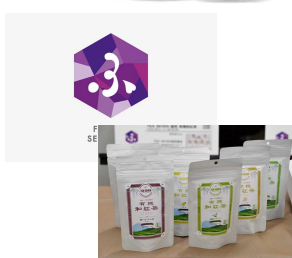
地域資源を活用し、マーケティング手法を取り入れた商品開発により、事業者をサポート (R4採択：6件)



○「藤枝セレクション」

(藤枝市)

地場産品の中から、藤枝を代表する商品を認定し、藤枝の名を全国に発信する取組 (R4応募：20件)



D Xを活用したマッチング支援

(県マーケティング課)

○「バイ・シズオカ オンラインカタログ」の活用

県産農林水産物やその加工品を掲載する「バイ・シズオカ オンラインカタログ」を活用し、国内外での販路拡大を促進



バイ・シズオカ
オンラインカタログ
公開700商品以上
(R5.1時点)

○食や食文化データの活用 (R5新規)

地域食材の生産される背景や地域に根付く食文化等のデータを集積し、飲食・体験や商品購入、観光商品づくりを促進する。

E C販売に関するモデル実証

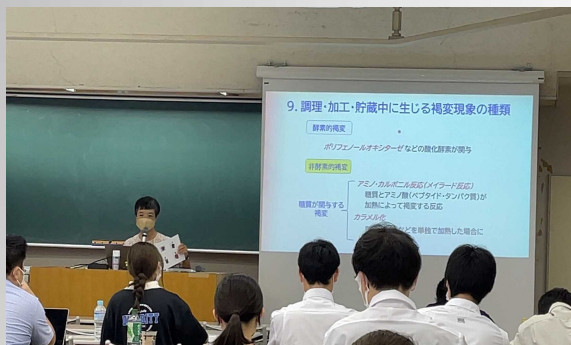
(焼津市)

○外部人材等を活用した E C 事業モデル実証事業

- ・ E C 販売を活用した販路開拓・拡大を行うために、E C サイトの戦略策定やサイト商品の改善等に取り組む食品加工業者を支援
- ・ 事業者の E C 販売を通じた売上拡大とマーケティング等に関する人材育成を図るとともに、地場商品のリブランディングや地域経済の活性化に寄与



○ 人材育成、クラスター形成



総合食品学講座

【概要】

<人材育成>

○H20年度から「総合食品学講座」を開催し、これまでに1,000人を超える人材を育成

○R2年度から新たに「健康イノベーション教育プログラム」を開講（R4からは社会人対象の講座に変更）

<クラスターの形成>

○食品関連産業に対する助成金の優遇
・用地20%→30%、建物等7%→10%

○富士大淵工業団地の造成
・令和4年5月に工事が完了し、10月に企業局から富士市へ引渡し

○クラスター分野支援貸付
・利子補給率1/2、0.67%まで

県立大学との連携による実践教育

○総合食品学講座（フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター）

・県立大学等と連携して、機能性食品等の開発人材を育成

<R4実績> 7月～10月

- ・新商品の開発を意識したグループワークを導入
- ・全14日間26講座 全部受講：28人

○健康イノベーション教育プログラム（県立大学）

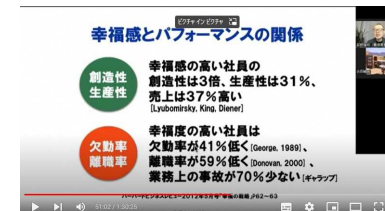
・データサイエンスの実践スキルの獲得を支援

<R4実績> 8月～3月

「健康と食」等の6講座 66名（12月末現在）



グループワークの様子



オンラインでの授業の様子

企業誘致の促進

○新規・地域産業立地事業費補助金

・県と市町が連携して、本県の立地環境や支援策をPRして、企業立地に取り組む（**県企業立地推進課**）

<R4実績>

- ・食品関連産業15社（用地の取得又は工場の新増設）

○クラスター分野支援貸付

・プロジェクトを推進する地域企業の事業実施に必要な設備資金、運転資金の利子を補給（**県商工金融課**）

<R4実績> ※R4.12月末時点

- ・件数：31件、金額 55億450万円



急速冷蔵技術導入による
むかご（自然薯の実）餡の
保存期間延長（丁子屋）ほか

プロジェクト全体における成果指標の状況

成果指標	目標値	現状値
静岡県の健康寿命	全国第1位	男女ともに全国5位 (男性73.45歳、女性76.58歳) R3.12.20発表 (3年ごと)
食料品等の付加価値労働生産性	全国第1位	全国第4位 (R2実績) R4.12.26発表

活動指標	目標値	現状値 (R4. 12月末)		評価
産学官金連携による研究件数	90件/年	55件	県工業技術研究所とMaOI機構による共同研究等	△ 未定
事業化件数	40件/年 → <u>54件/年</u> (上方修正)	44件	しらすチップス、冷凍駅弁 機能性表示食品「小松菜」等	○ 達成見込
うち、ヘルスケア	5件/年	6件	高齢者見守りデバイス、アプリによる健康サービス提供システム等	◎ 達成済
販売促進支援件数	110件/年 → <u>400件/年</u> (上方修正)	344件	各種展示会への出展支援等 (R3:390件)	○ 達成見込
産学官金連携による人材育成数	100人/年	94人	総合食品学講座等受講人数	○ 達成見込

○活動指標の上方修正の考え方

- ① 「事業化件数」は、**県総合計画の目標値**に修正、 ② 「販売促進支援件数」は、**過去最高値の切り上げ値**に修正

プロジェクト成果品の売上等の状況

プロジェクト関連助成実績

- ・ R3製品化件数：**11件**
- ・ R3売上金額：**3億 1,600万円**（H30～R2成果品）
※うち3億円が機能性表示食品
- ・ 直近5年間売上金額計：**55億 8,800万円**

商談会実績

- ・ R3出展支援：**4展示会24社**
- ・ R3商談件数：**284件**
- ・ R3成約金額：**6,200万円**

主なプロジェクト成果品

○ハピトマ

(株)Happy Quality

【R元～2 機能性素材活用研究会】

- ・ R2 生鮮食品では**全国初、2成分の機能性表示**取得
- ・ R3 全国1,400店舗、**前年比約2倍**の販売実績



○ぎゅっとまるごと にんじんジュース

(株)東平商会

【R2 機能性表示届出支援】
【R4 販路開拓支援】

- ・ R2 機能性表示取得
- ・ R3 ふじのくに**新商品セレクション最高金賞**
その後**売上が1.5倍**に。
- ・ R4 ウェルネスフードアワード2022 **OYATSU部門銅賞**



○しらすチップス

(有)山精水産

【R3～4 販路開拓支援】
【R4 新商品開発支援】

- ・ R3 首都圏テストマーケティング出店、R2→R4の**売上が4倍以上**に。
- ・ R4 開発支援した姉妹品が**全国水産加工品総合品質審査会 東京都知事賞**



○冷凍駅弁

(株)桃中軒

【R3 食品等開発助成】
【R3 健康食メニュー開発】

- ・ R3 「しずおか健康生活応援弁当」と先端技術を用いた冷凍弁当を開発
- ・ R3→R4の**販売数1.5倍**。
- ・ R4 惣菜・べんとうグランプリ **健康・ヘルシー部門優秀賞**



来年度の取組

○計画の進捗状況と今後の方向性

2020年3月に策定した5年間（R2～6年度）の第1次戦略計画に沿ってプロジェクトを推進している。
これまでの進捗状況や計画策定後の社会環境の変化を踏まえた取組内容等の方向性を検討するため、有識者委員を中心に御意見を伺った。

1 事業化の主な内容（R2及びR3）

分類	件数	備考
①食品、飲料	63件	一般食品、飲料
②保健機能食品	21件	機能性表示食品等
③ヘルスケア	35件	うち34件は、健康機能情報を付与したメニューの開発（スマートミール等）
④化粧品等	15件	原料を含む



「データを活用したヘルスケアサービス」のような新たなサービスの創出が少ない。

2 プロジェクトを取り巻く環境の変化

(1) デジタル化の進展

(2) 健康志向の高まり

(3) SDGsへの注目度の高まり

3 今後の方向性(案)

デジタル技術など新たな技術の活用と取組の強化

(1) 食の社会課題解決

- ・食の課題解決に資するフードテックビジネスを支援

(2) ヘルスケア事業の支援体制の強化

- ・事業化支援メニューの充実
- ・静岡社会健康医学大学院大学との連携

○委員からの主な御意見

付加価値の高い製品開発

○農林水産物を活用した製品開発の促進

- ・静岡県には**災害食**に取り組んでもらいたい。
- ・**機能性災害食は、静岡らしさ**とこれまでの取組が生かせる。

○フードテック

- ・人口増加等で高い確率でタンパク質不足となるなど**フードテックは今後のキーワード**になる。
- ・取組にあたっては、目標に掲げる「健康寿命日本一と労働生産性日本一」を判断軸にすべき。
- ・短期的な取組に終わらず、**社会的な仕組(システム)まで構築**できるとよい。

○その他

- ・プロジェクトを代表するヒット商品を出すことで、プロジェクトの認知度も上がる。

マーケットニーズ

○マーケットインの発想に基づく販路開拓

- ・「売れるものを作る」のではなく、「買ってくれるものを作る」発想で、商品を考える。
- ・**ストーリーを持った商品づくり**が求められる。
- ・**「モノ+提案」**を消費者は求めている。

ヘルスケア

○データヘルス

- ・健康のイメージがつくことで静岡県の商品価値も上がる。「健康寿命1位を目指す」という対外的にわかりやすく具体的なアクションが必要ではないか。
- ・データがあったとしても、それだけでは企業は集まらない。**データコンサルやデータサイエンティストが必要**
- ・静岡県でもデータ活用に積極的な市町があると思うので、そこを**先行モデルとして県が主導してユースケース(実例)を出していくのが重要**

○リビングラボ

- ・得意な領域を作り、「そのための場」であるとした方が利用を検討する企業としては理解しやすい。

○食によるヘルスケア産業の創出

- ・向こう40年間は、高齢者の数は減らず、一定の需要が見込める領域である。
- ・**ムードフード**は、情緒をコントロールでき、重要な分野であるので取り組んでもらいたい。
- ・「食で健康にする」ため、「消費者にいかにより食事を提供するのか」を考えることが必要
- ・ヘルスケアは、幅が広く、多くの企業が関係できる。**食以外も含めて企業の掘り起こしが必要**

○フードテックの活用 ① <R 4 取組実績>

- 農林水産省を中心に産学官が連携したフードテックの取組が加速する中、本県においても**県内食品産業の強み「製造・加工」分野のポテンシャル**などを活かした、**静岡らしい高付加価値製品の開発支援を強化**していく。
- 今年度、FHCaOI戦略検討委員に外部有識者を交えた「静岡県フードテック活用検討会」を立ち上げ、**フードテック活用の方向性**を取りまとめた。

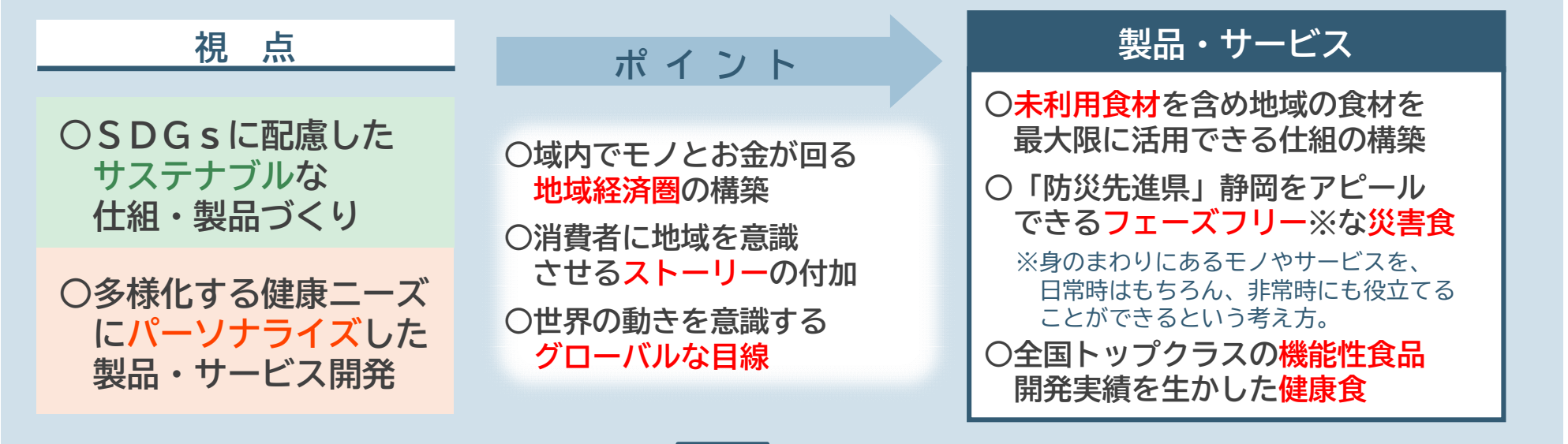
<検討事項>

- (1) 本県が取り組むべき分野の選定（市場動向・将来性・実現性）
- (2) 静岡らしい高付加価値製品開発を促進するための手法・施策

<検討会構成>

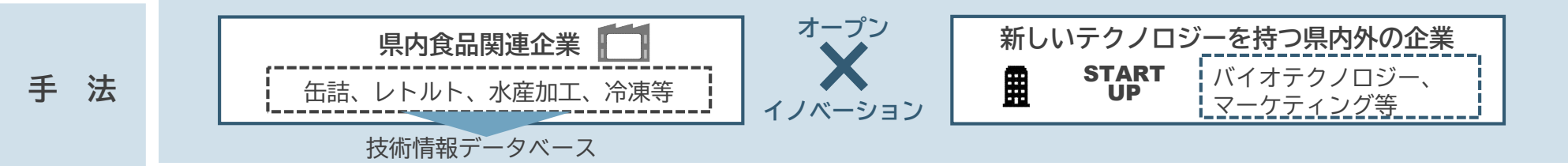
区分		メンバー	所属・役職
戦略検討委員	研究機関	若林 敬二（委員長）	静岡県立大学 食品環境研究センター長
	企業	川隅 義之	はごろもフーズ(株) 経営企画本部長
		古谷 博義	(株)ウェルビーフードシステム 代表取締役
	支援機関	渡邊 眞一郎	MaOI 機構 専務理事兼事務局長
		岩城 徹雄	A O I 機構 専務理事
外部有識者	塚田 周平	(株)リバナス 執行役員	
	木附 誠一	(株)三菱総合研究所 主席研究員	
	増田 拓也	(株)シグマクシス ヒューリスティックセルロ°/ポリシロ°ル	

<目指す姿>



県内の食品技術を結集して
静岡発「未来の食」を国内外に発信

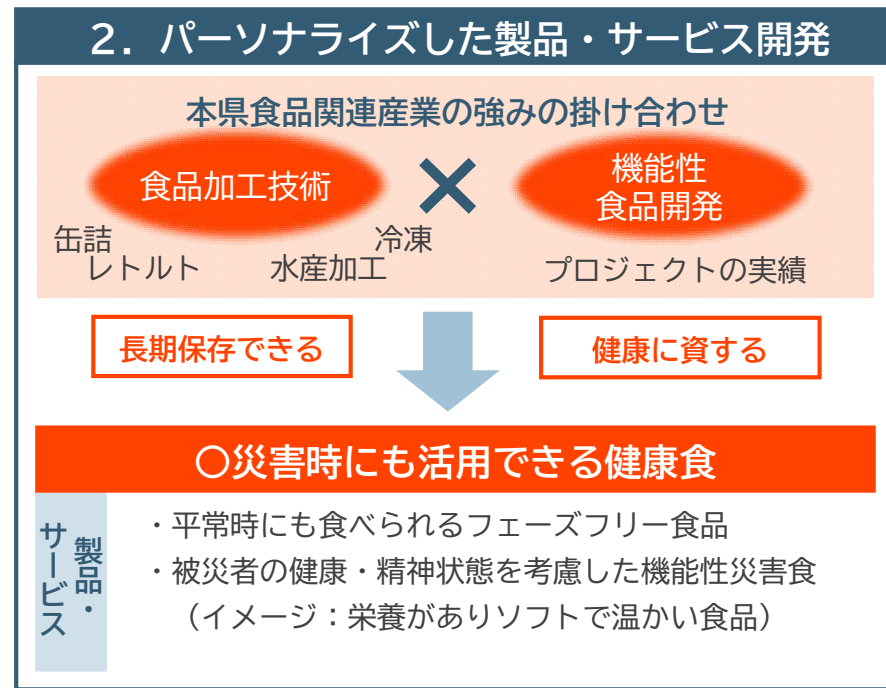
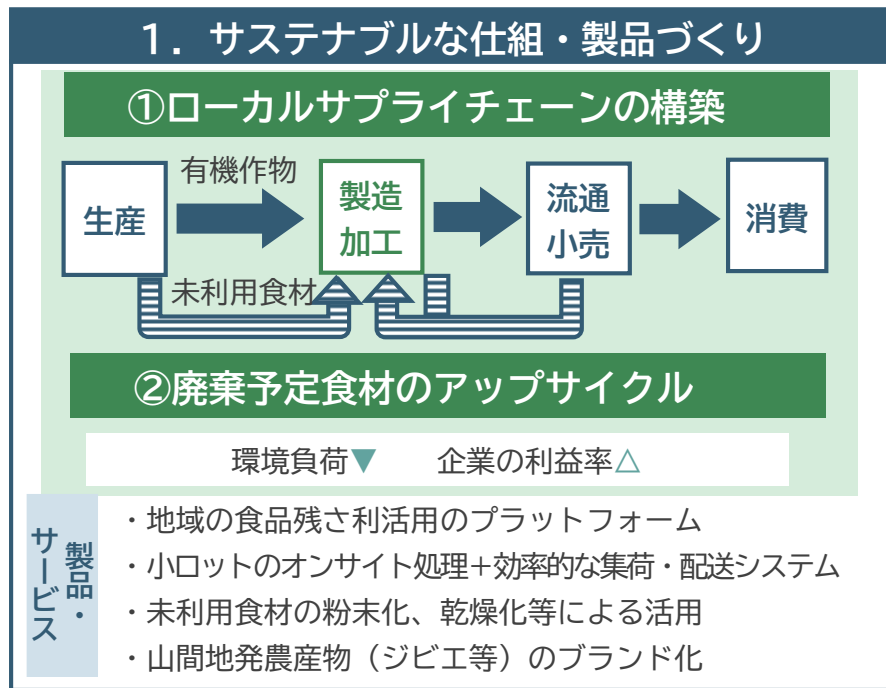
<施 策> プロジェクト間連携や新しいテクノロジーを持つ県内外の企業との協業によるオープンイノベーション促進



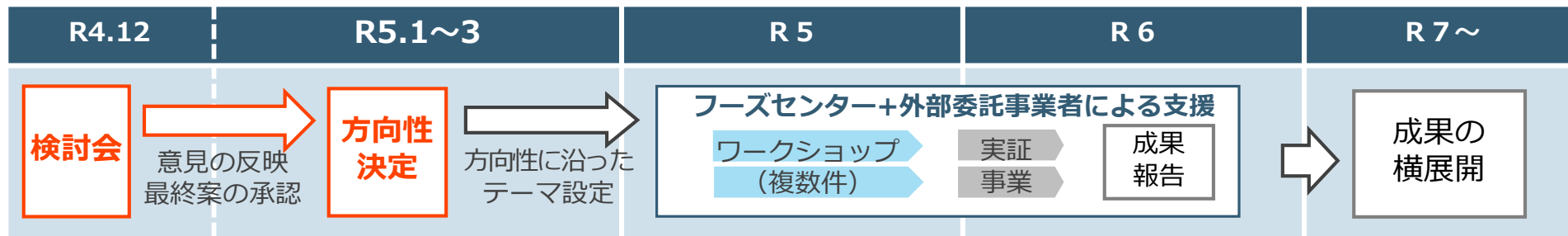
○フードテックの活用 ③ <R5事業内容>

○静岡発「未来の食」を国内外に発信できるよう、方向性に沿ったテーマによるワークショップを開催するなどして、事業化を支援する。

<令和5年度の具体的な事業内容>



<スケジュール>



○ヘルスケア① <R5新規：事業計画作成支援>

参入事業者を増やすため、ヘルスケア領域の知識習得及びアイデア段階の事業案を確度の高い事業計画まで具体化させる**専門的支援により、参入のきっかけを提供する**

ヘルスケア
ビジネスの
方向性

「既存」のヘルスケア
製品・サービス



アップデート



- ・健康訴求性の向上
- ・他分野との連携
- ・DXの活用
- ・新技術による新展開 等

「新たな」ヘルスケア
製品・サービス



新規事業

ヘルスケアビジネス開発ワークショップ^o（事業計画作成支援）

○目的

- ・ヘルスケア領域の最新事例を参考にしながら、新たなヘルスケアビジネスを発想し、**事業計画作成を支援することで参入を促進**

○内容

- ・ヘルスケアビジネスの創出に向け、事業案の構築に向けたワークショップを実施しながら、**事業計画を作成**
- ・その後、**個別面談**を複数回実施し、事業案をブラッシュアップし、**事業化の可能性を高める。**

○ヘルスケア② < R 5 拡充 : ヘルスケア分野における産学官連携の促進 >

- ・エビデンスのあるヘルスケア商品の社会実装を支援するため、産学官連携の仕組みづくりを推進
- ・具体的には、健康経営企業や市町の課題（ヘルスケアサービスのニーズ）と企業サービスをマッチングし、実証等を通じて社会実装を支援する。実証にあたっては、大学の支援を得て実施する。

現 状

○県内企業



【課題】

- ・製品やサービスのエビデンスを深め、社会実装したい
- ・現場のリアルな声（課題）を知りたい 等

○健康経営企業・市町



【解決したい課題等（例）】

- ・費用対効果の高いサービスを導入したい
- ・健診等の受診率を向上させたい
- ・健康的な食環境を整備したい 等

県外企業等との連携



② 解決策の提案

マッチング
課題解決事業作成

① 課題提示

フーズセンター等による支援

事業案
(検討中)

事業者

- ・実証計画立案
- ・倫理審査の実施
- ・データ収集等

③ 実証事業

健康経営企業や市町による支援

- ・フィールド提供(リビングラボ)
- ・参加者確保
- ・広報等

○支援内容

- ・実証計画策定時の専門的な助言
- ・実証結果の評価 等



静岡社会健康医学
大学院大学

○支援内容

- ・食と健康などの学術的知見の提供 等



静岡県立大学

○消費者ニーズを捉えた商品開発と販路拡大(R5新規)

・多様なライフスタイルや超高齢化社会をビジネスチャンスと捉え、市場が求める製品開発やサービス展開を支援

おいしく、健康をもたらす「おやつ」開発

○おやつをテーマにした企業交流セミナーの開催 (R4.11.11)



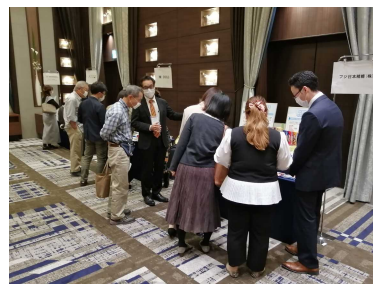
健康に良い間食「おやつ OYATSU」とは
間食が健康維持にも重要な働きがあることが科学的に理解されている中で、おいしいだけでなく健康にも良い「機能性おやつ」が注目を集めています。
日本だけでなく世界に向けて「おやつOYATSU」の新たな価値観を提言されている早稲田大学矢澤一良氏にご登壇いただきます。

基調講演

「健康増進につながる静岡発
“おいしいおやつ”の可能性」

早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構
規範科学総合研究所ヘルスフード科学部門 部門長
矢澤一良 (やざわかずなが) 氏

共催：静岡県菓子工業組合
(一財) MaOI 機構



健康に資する菓子に活用
できる原料の展示

【R5 予定】

○健康に資するおやつ開発

菓子工業組合の組合員を
中心に健康に資する
「おやつ」づくりを支援

健康生活提案による販売促進

○展示会や首都圏店舗でのテストマーケティングによる販路開拓



○展示会への出店
R4.7月
ウェルネスフード
EXPO (7社出展)



○テスト販売
東京駅構内の店舗で
テスト販売による販路開
拓や商品のブラッシュ
アップを支援

【R5 予定】

○商品 + 提案による新たな
販売促進の試行

店頭にて消費者に対し、
健康生活を提案すること
による販売促進

(プロジェクト関連商品に
よる健康提案)

付属資料

戦略1 「きわめる」オープンイノベーションやデータ活用による研究開発の推進

戦略計画 の内容 Plan

1 戦略の内容

先端科学技術拠点等との連携やオープンイノベーションの「場」の創出、健康データなどの活用により、研究開発を推進します。

2 主な取組

- 先端産業創出プロジェクトとの連携
- 研究機関との連携強化
- 企業連携を促進するフォーラム
- 健康データなどを活用したデータ駆動型の研究開発
- 海外研究機関との連携

取組実績 Do

1 取組状況

- AOI、MaOIプロジェクト等、先端産業創出プロジェクトとの連携による研究開発の推進
- 異業種から食品、化粧品産業分野への参入を目指す地域企業やベンチャー企業を支援
- 県立大学・県工業技術研究所等と連携した素材開発の推進
- FHCaOIフォーラム会員向けセミナー等の情報発信の実施

2 取組実績（R4.12月末時点）

- ◇ 産学官の連携による研究件数：55件
- ◇ 先端産業創出プロジェクト連携会議の開催（3回）
- ◇ 県内企業の技術情報Webサイト「テクノロジー静岡」掲載件数：145社、うちFHCaOI関係37社
- ◇ 県工業技術研究所で県産農林水産品を活用した化粧品素材開発を実施中
- ◇ FHCaOIフォーラム会員：1,517（R3）→1,554（R4）R4 +37
- ◇ 会員向けフォーラム及びセミナーの開催（フードテック、化粧品等計4回）

進捗評価 Check

- ✓ 県産業政策課によって、先端産業創出プロジェクト間の交流のプラットフォームが運用されている。
- ✓ 県工業技術研究所を中心に産学官連携による研究開発が進められているが、コロナ禍と共に減少した研究件数はまだ十分には回復していない。

来年度以降 に向けて Action

- 「しずおか産業創造プラットフォーム」や「テクノロジー静岡」を活用しながら、先端産業創出プロジェクトのコーディネーター間の連携を一層強化し、産学官の連携による研究を促進する。
- 産学官の連携による研究から生まれた成果について、事業化に向けた製品開発・販路拡大を強化する。

戦略2「つくる」競争力のある高付加価値製品の開発

戦略計画 の内容 Plan

1 戦略の内容

機能性食品の開発や先端技術を活用した製品など、時代に即した競争力のある高付加価値製品の開発を目指します。

2 主な取組

- 先端科学技術拠点における成果の活用
- 製品開発を支援するプラットフォームの充実
- 県産農林畜水産物や地場産業を活用した製品開発の促進
- あらゆる角度からの付加価値の向上
- 人手不足への対応

取組実績 Do

1 取組状況

- コーディネーターによるAOI-PARC等との共同開発
- フードテックに関するセミナー開催、活用の方向性取りまとめ、ワークショップ運営
- 関東経済産業局と連携した県内企業の生産性向上の伴走支援

2 取組実績（R4.12月末時点）

- ◇ 製品化数：44件 うち機能性表示食品9品目
- ◇ 素材データベース掲載：届出素材9種103商品、研究中素材38種49件(R5.1月末時点)
- ◇ 食品等開発助成（補助率1/2、限度額200万円）：4件、481万円
- ◇ 化粧品等研究開発推進事業助成（補助率1/2、限度額500万円）：1件、130万円
- ◇ 新事業創造研究会：4グループ（9社）

進捗評価 Check

- ✓ プラットフォームを活用した機能性表示食品が事業化されるなど、順調に地域企業の製品化が図られた。
- ✓ 新型コロナウイルス感染拡大や気候変動による災害増加により、SDGsへの注目度が高まっている。
- ✓ 食料不足、食品ロスなどの社会的課題や、健康訴求性を高めた食品、おいしい災害食などの社会的ニーズに対応する技術開発を通じた、あらゆる角度からの付加価値の向上が必要。

来年度以降 に向けて Action

- 県内産業の「製造・加工」のポテンシャルを活かした、静岡らしい高付加価値製品の開発支援を強化。
方向性①：サステナブルな仕組・製品づくり
方向性②：災害時にも活用できる健康食開発
- 県内食品関連企業と、新しいテクノロジーを持つ県内外企業との協業を促進する。

戦略3 「いどむ」データヘルスの実践による健康機能の維持・増進

戦略計画 の内容 Plan

1 戦略の内容

新たに設置するリビングラボを活用し、健康状態に応じた健やかで美しい体づくりを目指したヘルスケアを実践するほか、食の基本であるおいしさを追求し、健康機能の維持・増進を図ります。

2 主な取組

- データヘルスを活用したプラットフォームの構築
- あらゆる健康課題に対応した製品・サービスの開発
- おいしく、健康をもたらす製品
- ヘルスケア産業の創出
- 健康的な食の確立と普及
- 健診など予防対策の充実

取組実績 Do

1 取組状況

- 通いの場を中心としたリビングラボでは、ウェアラブル端末による日常生活下での活動データや食事傾向データ等を活用した開発製品の実証フィールドとして活用
- ヘルスケアビジネス事業化促進助成やコーディネーターにより、ヘルスケアサービスの事業化を支援
- 企業間交流促進のため、セミナーの開催や企業の商品やサービス情報を収集
- 食育や栄養指導による健康づくり

2 取組実績（R4.12月末時点）

- ◇ リビングラボにて、地域企業によるモニタリングやワークショップ等を実施
- ◇ 「リビングラボ友の会（ビジネス）」の会員：56会員（R3）→76会員（R4） R4 +20
- ◇ 助成金において、事業化実証：2件及び実施可能性調査：6件を採択
- ◇ ヘルスケアビジネスイノベーションセミナー（R4.5.20）の開催（57名参加）
- ◇ フォーラム参加企業が提供するヘルスケア関連のサービス・製品・技術の情報を取りまとめ（64社）
- ◇ 各機関において食育や食をテーマとした事業を実施し、健康づくりを支援

進捗評価 Check

- ✓ コロナ禍等により、食や運動などの生活習慣を通じた健康維持・増進への消費者の関心は高まっている。
- ✓ 今後ニーズが高まる新たな成長分野であるが、どのようなサービスがヘルスケアビジネスになるのか事業者側でイメージにしくいため、参入事業者が少ない。
- ✓ データを活用するような新たなヘルスケアサービスの創出が進んでいない。

来年度以降 に向けて Action

- アイデア段階の事業案を確度の高い事業計画まで具体化させる専門的支援により、参入のきっかけを提供し、事業者の裾野を広げる。
- エビデンスのあるヘルスケア商品の社会実装を支援するため、産学官連携の仕組みづくりを推進

戦略4 「とどける」 社会の環境変化を踏まえたマーケットインによる販路拡大とサービスの提供

戦略計画 の内容 Plan

1 戦略の内容

多様なライフスタイルや超高齢社会をビジネスチャンスと捉え、市場が求める製品開発やサービス展開を積極的に支援し、新たな販路を拡大します。

2 主な取組

- マーケットインの発想に基づく販路開拓
- 社会の環境変化を踏まえたサービスの提供

取組実績 Do

1 取組状況

- 展示商談会への出展支援及び販路開拓・拡大アドバイザーによる支援
- コロナ禍での支援（デジタルを活用した展示会、セミナー等）
- 社会環境、消費者動向を踏まえた販路開拓事業やマッチング支援の実施
- 自治体による地域ブランディングや個別商談会の開催

2 取組実績（R4.12月末時点）

- ◇ 各種展示商談会への出展支援（4回、延べ23社）
- ◇ 販路開拓・拡大アドバイザー商談成立件数（187件）
- ◇ 東京駅地下街にてテストマーケティングを実施（26社36品目）
- ◇ 地域の魅力を伝えるブランディング（「頂」「静岡おみやプロジェクト」「藤枝セレクション」等）
- ◇ 「バイ・シズオカ オンラインカタログ」を活用した商談会の開催（6回）

進捗評価 Check

- ✓ 各種展示商談会への出展支援や販路開拓・拡大アドバイザーの支援により販路拡大を進めることができた。
- ✓ 首都圏におけるマーケットニーズや商品に関する課題を把握できた。
- ✓ 引き続き、コロナ禍による消費スタイルの変容（需要面（時短、中食、ニッチ市場）、流通面（スーパー、コンビニ、ECの好調）の変化）に対応した支援が必要。
- ✓ 地域ブランディングの活動を通じて、地域の魅力を伝える商品開発を推進した。

来年度以降 に向けて Action

- 展示商談会やアドバイザーによる販路開拓・拡大支援の継続、テストマーケティングを通じて得られた課題への対応支援など、マーケットニーズを踏まえた個別商品のブラッシュアップを図る。
- バイ・シズオカの推進やしずおか食セレクション ロゴマーク「頂」を活用した販路拡大等に加え、量販店にて消費者に対し、食による健康生活を提案することによる販売促進を行う。

戦略5 「そだてる」産業人材等の育成と開発環境の充実によるクラスター形成

戦略計画 の内容 Plan

1 戦略の内容

地域の競争力強化を目指して、産業人材の育成、開発環境の充実に努め、製品開発力の高い企業などが集積する食品関連クラスターを形成します。

2 主な取組

- 大学等との連携による実践教育
- 企業誘致の促進

取組実績 Do

1 取組状況

- 地域企業内で新規機能性食品等を開発する人材を養成
- 地域企業の中核人材を対象に、データサイエンスの実践スキルの獲得を支援
- 食品関連産業の積極的な企業誘致（助成での優遇:用地（20%→30%）、建物等（7%→10%））
- プロジェクト関連事業の実施に必要な設備資金・運転資金を支援（利子補給）

2 取組実績（R4.12月末時点）

- ◇ 総合食品学講座 全部受講者：28名（定員26名）
- ◇ 健康イノベーション教育プログラム（6講座） 受講者：66名
- ◇ 新規・地域産業立地事業費補助金 採択：食品関連産業 15社
- ◇ クラスター分野支援貸付（利子補給率1/2、0.67%まで）31件 55億450万円

進捗評価 Check

- ✓ 新商品開発に模擬的に取り組むグループワークを導入し、より実践的な人材育成講座に改編
- ✓ 食品関連産業15社が工場を新設又は増設し、業務開始予定であり、製造品出荷額の増に寄与
- ✓ 利子補給制度は、新たな高付加価値食品に挑戦する企業の支援につながっている。

来年度以降 に向けて Action

- 受講者アンケートの分析による講座内容の見直しやSDGsやDXなどの社会情勢の変化を取り入れた講座の実施により、高度な産業人材の育成を図る。
- JETROやSIBAとも連携し、県内への投資を検討している外資系企業の誘致に取り組む。
- クラスター分野貸付を継続し、地域企業の事業活動を活性化させる。

戦略6 「ひろめる」「食の都」の内なる国際化と魅力ある静岡の食文化の発信

戦略計画 の内容 Plan

1 戦略の内容

本県を訪れる誰もが、国籍、宗教を問わず、静岡の食と食文化を楽しむことができる環境を整備し、静岡の食の魅力を広く発信します。また、静岡の食を海外に向けて積極的に売り込み、輸出の拡大につなげるため、国際規格に対応した製品開発についても積極的に支援します。

2 主な取組

- 「食の都」の内なる国際化の推進
- 魅力ある県産品の輸出拡大

取組実績 Do

1 取組状況

- ハラル対応の店舗の把握とインターネットによる情報提供、ピクトグラムの導入促進
- アジアを中心とした海外で活躍する料理人に対して、県産食材や本県の食文化を発信
- 海外販路開拓（海外見本市出展、販売促進媒体作成等）に取り組む県内中小企業を支援（助成金等）
- GAPやHACCPなど農林畜水産物の国際認証取得を支援

2 取組実績（R4.12月末時点）

- ◇ 「ハラル・ポータル」による情報提供 掲載153店舗
- ◇ 海外の料理人等に対して県産食材や本県の食文化を紹介する生産現場視察やセミナー等を開催(R5.2月)
- ◇ 県産品海外販路開拓ニューノーマル創出事業による海外販路開拓（新規輸出成約件数：108件）
- ◇ 韓国化粧品企業と県内化粧品企業の情報交換会（36名）、商談（6社）を開催
- ◇ 中小企業海外市場開拓支援事業（補助率1/2、限度額50万円）採択実績25社
- ◇ 国際水準GAP認証の取得推進のため、22人の国際水準GAP指導者を育成

進捗評価 Check

- ✓ 海外に向けて県産食材の魅力や本県の食文化の発信ができています。
- ✓ コロナ禍における海外渡航規制の緩和を受けて、海外の関係企業との交流が戻りつつある。
- ✓ プロジェクトを推進する県内支援機関において、着実に事業展開が図られている。
- ✓ 海外市場の開拓のためには、輸出先の規制に応じた認証・商標の取得が必要となる。

来年度以降 に向けて Action

- 食の都づくり事業の蓄積を発展させた「しずおか型ガストロノミーリズム」を推進する。
- 引き続き、新型コロナによる海外渡航規制の緩和の状況も踏まえたDXによる販路拡大支援を実施する。
- プロジェクトを推進する県内関係機関との協働により、輸出先の規制に対応した認証・商標取得を支援